【2023 年度 中間レポート奨学生の声】

奨学生 A さん

・改めまして、貴財団の奨学金を頂けたこと、非常に感謝しております。
大学は義務教育ではないため、学びたい人が学ぶことができる教育機関であります。自分の生活の中でなくてはならない音楽という存在を、多角的観点から学ぶことができている環境の素晴らしさを実感しております。しかし、学ぶにしろ生活していくにしろ、何事もお金がかかるというのが現実であり、お金がなければ何かを諦めなければならない事実もあります。実際に、メディアでも、“お金がないことから進学を諦めざるを得ない”、“進学したいが片親家庭であるため、負担をかけたくなく、早く就職しようと考えている”といったニュースを何度も耳にしたことがあります。私がこのように、安心して勉学に打ち込める環境があるということは、決して当たり前のことではなく、貴財団のような素敵な取り組みがあるおかげで、成り立っているのだと実感しております。
まだまだ未熟者ではありますが、今後も様々な勉強を通して人々と関わりながら成長し、“教員”という社会に貢献する形で恩返しができればと考えております。
改めまして、安心して勉学に臨める環境を作ってくださったこと、非常に感謝しております。
今後ともどうぞ、よろしくお願いいたします。

奨学生 B さん

・今年度は昨年度より授業数が少ない分、より多くの時間を作編曲に充てることができています。自分のやりたいことや作りたい音楽、出したい音などがまだまだ知識や経験が足らず、できないことばかりで悔しい思いをすることもありますが、日々試行錯誤しながら過ごしています。悩んだり立ち止まったりするときもありますが、その度に自分が音楽をやるきっかけになった曲を聴き、モチベーションを保っています。これから挫折することもあるかもしれませんが、その度に原点に立ち返り、頑張ろうと思います。奨学金をいただき、音楽大学に通うことができているということを忘れずに残りの学校生活で自分にできることを精一杯やろうと思います。

奨学生Ｃさん

・奨学金の給付により、この夏はドイツのマスタークラスに参加することができ、新たな研鑽を積みました。マスタークラス中は教授によるレッスンのほか、さまざまなレクチャーが行われ、演奏する際の身体の使い方を深く学ぶことができました。教授陣による演奏会やオーケストラコンサートは素晴らしいもので、大変良い刺激を受け、自分自身の音楽観が大きく変わりました。この経験を通して、大学卒業後の進路計画を以前より具体的に立てることができ、ヨーロッパの生活からは文化的な学びを得られたことも大きな収穫になりました。

奨学生Ｄさん

・この度は，奨学生に採用していただきありがとうございます。奨学金のおかげで，心と時間に余裕が生まれ,学業やピアノの練習に専念することができております。
特に奨学生として採用されるまで，小学校・中学校教育実習の計二か月間アルバイトすることができず収入がなくなるため，学びながら生活できるか強く不安を感じていました。しかし奨学生として採用していただいたおかげで，実習に専念することができ，更に大きな学びを得ることができました。
これから来年度の教員採用試験や大学院入試，ピアノコンクールそれぞれの目標を実現するため，この恵まれた機会をつくっていただいたことに感謝しながら，より一層精進していきたいと思います。

奨学生Ｅさん

・この度は奨学生として採用して頂き、誠にありがとうございます。
家庭の経済的な理由で県外の音楽大学への進学は初めから考えることすら許されず、地元の大学へと進学しましたが、自分に与えられた環境の中で何事にも誠実に取り組むことを目標に、これまで精進してまいりました。そんな中、私の学内での努力や成果を認めていただき、大学の教授の方から藤澤記念財団様の奨学生として私を推薦してくださいました。今振り返るといつも心のどこかには、東京など音楽を学ぶのにより良い環境が整う場所への憧れがあったように思いますが、今回奨学生としてご支援いただいたことで、経済的な心配をせず安心して県外へ何度も足を運ぶことができ、憧れていたホールで演奏をしたり、新しい出会いの中で刺激をもらったりと、多くの貴重な経験をさせて頂きました。それだけでな

く論文の執筆や練習のための時間もしっかりと確保することができて、奨学生として学ばせていただけることのありがたさを身をもって実感し、感謝の念に堪えません。
ご支援をいただけることに改めて感謝申し上げるとともに、奨学生としての名に恥じぬよう今年度後期も引き続き精進してまいります。